学習内容報告書 フォーマット

学校名	石川県鳳珠郡能登町立松波中学校
授業者	樋本　光

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

海藻から探る能登町の海（海を知る・守る）

1-2.　学年

２年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

能登町では、２０１５年、町の創生総合戦略において、「小中学校で郷土愛を深め、ふるさとに誇りを持てる実践教育として海洋教育の充実を図る」ことが明記され、能登町教育委員会の主導で海洋教育の推進が図られている。２０１６年度から能登町の全小中学校での海洋教育が開始された。能登町各校は地域の自然や施設、人材を活用した体験活動の充実と、その前後の言語活動を大切にしながら各学校の独自性を生かした実践を行ってきた。

本校では「海藻から探る能登町の未来～海に進んで関わろうとする生徒の育成を目指して～」をテーマに各学年ごとに重点項目を設定し、目指すねらい・育成すべき生徒の姿を定め、総合的な学習の時間を柱とした単元を計画し実践した。１年間通して計画的に展開する教育課程の開発と実践を通して、海に進んで関わろうとする生徒の育成をめざすものである。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

世界規模の海洋汚染問題が深刻化している中，海洋環境問題について正確な知識を持つことが重要視されている。生徒は海が身近にある一方，海洋環境問題については「他人事」という意識がある。そこで海藻をテーマとした体験活動・保全活動を通して海の環境保全に主体的にかかわろうとする生徒の育成を目指す。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

地元の海で良さや課題を発見し，関心を持つことで，環境と自らの生活を結びつけて考えることができる。日常生活の中に潜む問題が，地域や地球規模の問題と深く関係していることを知り，互いのつながりを考えることができる。また自分たちが学んだことを地域に配信することで，環境問題に主体的に取り組む態度を養う。

1-7.　単元の展開（全１０時間）

※目指す資質・能力

A：知識及び技能

B：思考力，判断力，表現力等　　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現

C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②自己理解　③協働　④他者理解　⑤社会参画

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	海洋学習オリエンテーション 今年度の海洋教育学習では、どんな内容を学習していくのか、また、なぜ海洋教育を行うのかなど生徒が具体的にイメージを持つことで見通しを持って活動できるようにする。	○教師の指導：授業の趣旨、今年度の説明と進行 ○主な評価 ・課題の設定（B①） ・主体性（C①） ○使用教材　ワークシート　パワーポイント　生徒端末
2・3	能登の水産資源について（石川県水産総合センター） 『石川の海の現状（良さと課題）講義』 石川県には 200 種類以上の藻類が分布し, 約 30 種類は能登地域で食用にされている。また、イカ釣り漁が盛んな理由について能登の海や地理的特徴などが関係していることを学ぶ。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・海藻の豊かさ、食文化、イカ釣り漁が盛んな理由について理解する。（A） ・情報の収集（B②） ○外部連携：石川県水産総合センター ○使用教材 ワークシート、パワーポイント
4	『海洋ごみ問題の講義』 海ごみ問題とは何が問題なのか，なぜ起きているのかを知る。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・海洋ごみ問題について理解する。（A） ・情報の収集（B②） ○外部連携：能登里海教育研究所 ○使用教材：ワークシート、パワーポイント 海ごみサンプル
5	『身近な海のよさを守っていくには何ができるかを考える。』 今までの学習を受けて，ブレインストーミング法を用いて，生徒から様々な考えを出してもらい，自分たちが取り組む課題の計画を立てる。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・課題の設定（B①） ・整理・分析（B③） ○使用教材：ワークシート、パワーポイント、生徒端末
6・7	『赤崎海岸清掃』（悪天候により未実施） 自分たちで地元の赤崎海岸の清掃をする。また漂着物調査もかねて行う。その際に注意点など海上保安署の方に解説していただく。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・相手や目的に応じて，意図を明確にして表現する。（B④） ○外部連携：能登海上保安署 ○使用教材：軍手、ごみ袋、トング

8 ～ 1 0	『学習のまとめ（ポスター・動画の作成）』 取り組みに関するポスター（美術科と連携）や動画を作成。関係・連携機関に依頼し掲示、ポスターに関しては校内掲示、一部を金沢海みらい図書館にて掲示。動画に関しては能登町有線テレビにて放送してもらう。	○教師の指導：課題提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・まとめ・表現（B④） ・社会参画（C⑤） ○外部連携：能登町役場広報情報推進課 ○使用教材：タブレット、動画編集ソフト

1-8.　単元における位置づけ

単元　１０　時間中の　４　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

1-9.　本時の目標

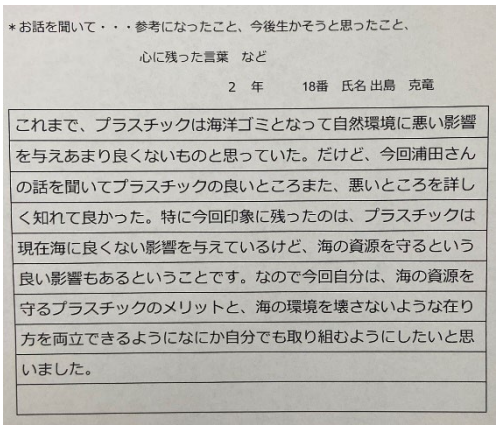
・海洋ごみの問題について理解を深める。
・海洋ごみ問題解決のため、何ができるか考える。

1-10.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１.本時の課題につながる身近な事例について考える。 ・コンビニで袋が有料になったのはなぜか？ ・スターバックスのストローはなぜ紙になったのか？ ・給食のストローが廃止されたのはなぜか？	・PowerPoint を用いて、端的に説明する。
海洋ごみの問題について考えよう	
２.海洋ごみ問題について説明を聞く。 ・海洋ごみが世界的問題になっているということ（何が問題なのか） ・石川県や能登町では海洋ゴミ問題はどうなっているのか（海洋ごみの現状）	・ゲストティーチャーに説明してもらう。 海洋ごみとは何か、近年問題になっているマイクロプラスチックなど実験や、実物を見せてもらいながら説明してもらう。 評価の視点①：海ごみ問題について理解する。（A）
３.海洋ごみの流出を防ぐために何ができるかを考える。 ・海岸清掃イベントの開催 ・環境保護啓発運動の実施 ・海の魅力をＰＲする。	・自分達や、地域でできることを立案し、ホワイトボードでまとめ、発表する。 できる、できないではなくアイデアを出させる。 評価の視点②：（ワークシートの記述から） 視点を決めて多様な情報を分析する。（B③）
４．まとめ、振り返り	

2.　今回の活動の自己評価

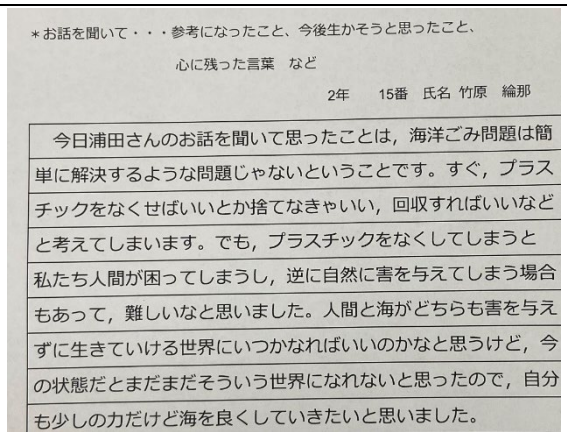
（生徒の感想より）



＊お話を聞いて・・・参考になったこと、今後生かそうと思ったこと、
心に残った言葉　など

2　年　　18番　氏名 出島　克竜

これまで、プラスチックは海洋ゴミとなって自然環境に悪い影響を与えあまり良くないものと思っていた。だけど、今回浦田さんの話を聞いてプラスチックの良いところまた、悪いところを詳しく知れて良かった。特に今回印象に残ったのは、プラスチックは現在海に良くない影響を与えているけど、海の資源を守るという良い影響もあるということです。なので今回自分は、海の資源を守るプラスチックのメリットと、海の環境を壊さないような在り方を両立できるようになにか自分でも取り組むようにしたいと思いました。



＊お話を聞いて・・・参考になったこと、今後生かそうと思ったこと、
心に残った言葉　など

2年　　15番　氏名 竹原　綸那

今日浦田さんのお話を聞いて思ったことは，海洋ごみ問題は簡単に解決するような問題じゃないということです。すぐ，プラスチックをなくせばいいとか捨てなきゃいい，回収すればいいなどと考えてしまいます。でも，プラスチックをなくしてしまうと私たち人間が困ってしまうし，逆に自然に害を与えてしまう場合もあって，難しいなと思いました。人間と海がどちらも害を与えずに生きていける世界にいつかなればいいのかなと思うけど，今の状態だとまだまだそういう世界になれないと思ったので，自分も少しの力だけど海を良くしていきたいと思いました。

プラスチック製品と海の環境を守ることを共存させていくような取り組みが必要である。海洋ゴミ問題は簡単に解決するものでない・・けれど・・・今のままではまずい。等々の感想が見られ、海を身近な存在として捉え、自分達にできることについて考えていた。また、海洋教育の取組から、生徒自らが課題を設定し、講義や実習により情報を集め、整理・分析をし、地域に表現、発信するという、探究のプロセスを主体的に取り組むことができた。

3.　今後の課題

本校の今後の課題として２つ上げられる。
①海洋教育フォーラムなどに参加し教養を深めるなど、担当者を中心に学びを深め学校職員全体に還元するなど、さらなる研修が必要。
②小学校での学びを生かしたプランの作成や食物アレルギー等の関係で例年通りのプランが組めない場合など各学年の実状に応じたプランの作成を検討する必要がある。

4.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・外部指導員との連携（能登里海教育研究所）
・身に着けたい資質能力を明確にすること。